

2012 ホームカミングデー参加報告

理窓会岡山支部 副支部長 三浦 康男
(昭和46年 理工学部数学科 卒)

今年の「2012 (第7回) ホームカミングデー」が、平成24年10月28日(日)に、神楽坂キャンパスで開かれました。

野田キャンパスでの第1回から毎回参加しておりますが、回を重ねるごとに工夫され盛大になっており、大変うれしく思っております。

前日、野田市での教え子の同窓会で少し飲み過ぎ、神楽坂に着いたのが十時前でした。前日の好天に比べ、この日は曇り空の天候でした。今回は、午前中は「神楽坂散策ツアー」、午後には「記念講演」と「ふれあいライブステージ」に参加しました。参加した順に、以下その概要などを報告します。

神楽坂散策ツアー

このツアーは3回実施され各回の定員は25名でしたが、私は第1回目の10:30～11:30に参加しました。集合場所の「森戸記念館」に行き受付をすると、ガイドの先生の音声受信装置を渡されました。この装置は、先生の説明が離れていてもはっきり聞こえ、大変よかったです。

講師の先生は早稲田大学の安藤 優一郎先生で、JR東日本・大人の休日倶楽部などの講師を務めており、文学博士・歴史家です。

まずはじめに、神楽坂についての説明がありました。街歩きで大変人気のある町で、江戸時代は大名屋敷の他、旗本・御家人などの武士が主従する町として知られていました。現在は洋風の店が数多く建ち並ぶ街に変貌していますが、これから歩いてみると、意外にも江戸が数多く残っていることに気づくと思われそうですとのことでした。

出発となり外に出ると、すでに雨が降っており雨の中での散策になりました。

森戸記念館を出てまっすぐ行くと、鮮やかな朱色の山門や本堂が見えてきました。神楽坂の毘沙門天として親しまれている善国寺だそうです。寅と丑の日が毘沙門天の縁日で、江戸の頃より毘沙門天のなかでも、江戸で1、2を争う参詣者があったそうです。

次に訪れたのが、若宮八幡神社です。神楽坂から少し入った住宅街の中に神社がありました。神楽坂の名前の由来にはいくつかの説がありますが、若宮八幡神社の神楽がこの坂で聞こえたので、神楽坂と呼ばれるようになったという説もあると、説明してくれました。この場所の地名の「若宮町」は、この神社から取られているとのことでした。

続いて、若宮八幡神社の近くにある、東京理科大学が設立した近代科学資料館に行きました。15分ほどの見学時間でしたがとても見切れないので、午後にもう一度行きました。建物は、当時の東京物理学校を模倣して建てられています。

1階には、次のようなもの展示されており、じっくり見学するには、少なくとも30分は必要と感じました。各種の電球、テープレコーダー、蓄音機、真空管、機械式計算機(手回式を含む)、電子式計算機、マイクロプロセッサ、計算尺、そろばんなど歴

史的なもの、外国のものが数多くありました。手回式タイガー計算機を見たときには、理科大に入学してすぐに、計算の仕方を習ったときのことを思い出し、大変懐かしかったです。その他、ロッカー5～6個分もある「ファコム201パラメトロン電子計算機」も展示しており、その大きさにびっくりしました。皆さんも是非一度見学してください。2階には、東京物理学校、東京理科大学の歴史や関連資料、宇宙、天文に関するものが展示してあり、ただ見学するだけでなく、ボランティアの学生がセクション毎にいて説明してくれました。1階同様、見学や説明を聞くのに、30分は優にかかると思います。その展示物の中には、私が初めて見た「宇宙食」の実物がありました。展示してあった宇宙食の種類を紹介します。お吸い物、たまごスープ、わかめスープ、粉末ウーロン茶、粉末緑茶、山菜おこわ、鮭のおにぎり、トマトケチャップ、野菜ソース、マヨネーズ、カレーラーメン、しょうゆラーメン、シーフードラーメン、赤飯、白米、いわしのトマト煮、さばの味噌煮、さんまのかばやき、ポークカレー、チキンカレー、白かゆ、黒飴、ようかん（小倉）の23種類です。

最後に**牛込御門跡**を訪ねました。JR飯田橋駅西口を出たすぐ（約30メートル）のところであり、現在は当時の石組みだけが残っています。石組みは、JR飯田橋を出た左側（南側）にあり、大学へは駅を出ていつも右側に行くため、私は全く知りませんでした。市ヶ谷御門、四谷御門と並んで江戸城の外堀沿いに築かれた城門跡です。阿波の国の大名・蜂須賀家が築いたものだそうです。その後、出発場所の森戸記念館に戻り、参加者全員で記念写真を撮り、解散しました。この記念写真は「理窓」（2013.1）のP12（下の一番左側の写真）に掲載されています。

昼前になったので、昼食に行きました。会場には学生食堂や模擬店もあるのですが、何年か前から神楽坂を少し入ったところにある「新富寿司」に行っています。ここでは、金券が使えるからです。もちろん、学生食堂や模擬店でも使えますが、ホームカミングデーの受付をするとお楽しみ抽選券をくれ、その券で抽選をしたら金券が当たりました。この抽選会はずれなしで、金券は当たったと言うよりは参加賞のようなものです。何年か前には、この抽選会で5万円の旅行券が当たり、びっくりしたり嬉しかったことがあります。金券を持って「新富寿司」に行こうとしましたが、今回は金券が使える対象店にはなっていなかったため、神楽坂の中程にある明治22年創業の中華料理店「龍公亭」に行き食事をしました。

記念講演：「時代認識とは何か～激動するIT産業革命～」

記念講演は、それぞれ異なる講師、演題により3回あり、私は第2回目の記念講演を聞きました。講師は「物理学校」（中公新書ラクレ）の著者、**馬場 錬成**（ばば れんせい）氏です。因みに第1回の講師は、東海大学政治経済学部教授の武見 敬三（たけみ けいぞう）氏で、演題は「高齢先進国日本の役割：健康長寿社会の経験」、第3回の講師は、東京理科大学理数教育研究センター長で数学者の秋山 仁（あきやま じん）氏で、演題は「草莽の志を貫かん！」です。

馬場講師の話は専門的なことも多く、私にはよく理解できないこともありましたが、印象に残っていることを列挙します。

まず「時代認識」とは、変化を的確に知ることにより、将来にわたって自分の周辺の状況を見極め、活動を考えることであるとの話から講演が始まりました。話の内容は、理科大学を卒業して読売新聞社に入社、記者として取材した様々な分野で、講師が経験したこと、考えたことが中心でした。

- ・日本人記者としてはじめて、ソ連の宇宙基地を訪れ宇宙船の打ち上げを取材した。「旧ソ連のロケットは、成功すると何も変えないので安定している。最新式が良いとは限らない」と感じた。
 - ・科学の進歩で、新たな課題にも直面した。脳死や臓器移植のことなど。
 - ・チェルノブイリ原発事故を取材して、被爆した。
 - ・C型肝炎にかかり闘病生活をした。同僚などは、「馬場はもう復帰できないだろう」と喜んだが、インターフェロンのおかげで3年後に復帰した。
 - ・外国のスポーツトレーニングを取材したが、ハイテク技術を導入しており、日本のスポーツの遅れを感じた。
 - ・中国はニセモノがとても多いが、それを見ても非難する気にならない。たとえば、トヨタの「ハイラックスサーフ」とほとんど同じ型の自動車を、「ハイラックスサーフ」として販売している。
 - ・中国人の考えは、騙す方が悪いのではなく、騙される方が悪い。どんなことでも、進歩の最初は、まねをすることから始まっている。ニコン、キャノン、ペンタックスなどの日本のカメラの歴史は、ライカ（外国）の物まねである。
 - ・食育推進運動のために、「全国学校給食甲子園大会」を提唱し表彰された。世界各国の学校給食も取材をしたが、日本の学校給食は、世界に冠たるものである。
 - ・環境問題にも取り組んだ。昔は多摩川に鮭が遡上していたが、その現象が見られなくなったので、多摩川に鮭を回復させる取組も、生前の石原裕次郎の協力を得て行った。その結果、多摩川に鮭が帰ってくるようになった。
 - ・進化論で有名なダーウインは、次のような言葉を残している。

「強いものが生き残るのではない。偉いものが生き残るのでもない。
変化に対応できるものが生き残るのだ。」
- このことは、我々人間についても言えることである。
- ・変化に対応できる人間になろう。

以上のような内容ですが、最後にこのように言われ話を結ばれました。

「今日本は、いろいろな分野で低迷しているが、
近い将来、必ず世界のリーダーとして復活する日が来る。」

講演が終わって屋外に出ると、降っていた雨も止んでいました。そこで、次にあげるふれあいライブステージの（１）と（２）の合間を見て、近代科学資料館をもう一度見学しました。見学内容については、先に述べたとおりです。

ふれあいライブステージ

記念講演が終わったのが午後2時30分でしたので、1・7・9号館前の野外会場に向かいました。

(1) 神楽坂 かぐら連「阿波おどり神楽坂かぐら連」14:40～15:05

阿波の殿様が牛込見付を造った縁により、この地で阿波おどりが始まったとのことです。40年あまり神楽坂の歴史とともに歩んできた「かぐら連」で、今は、3歳児から70歳までの70名余りのメンバーがいるそうです。当日は会場の参加者への阿波おどりの指導もあり、最後は「かぐら連」と会場の参加者が一緒になって踊りました。

(2) 祥子「～夢に負けないで～」15:50～16:15

昨年は小雨の中でのライブでしたが、今年は降っていた雨も止み、祥子さん本人も「私は晴れ女」と言っていました。昨年の岡山支部の総会には急遽駆けつけてくれ、素晴らしい歌声を聴かせていただきましたが、今回も同様に美しい歌声を披露してくれました。歌声と同様、ダークグリーンの素晴らしい衣装を身に着けての登場した祥子さんは、今年9月26日に開催した、デビュー16年目の記念ライブで歌った歌を披露しました。タイトルの「夢に負けないで」がそうです。祥子さんの歌を聴いていていつも思うことですが、歌の旋律の美しさは勿論のことですが、歌詞の素晴らしさを感じます。また、私をはじめ年を取っている者が知っており、懐かしいと感じる曲も、選曲の中には必ず入っていることにも、うれしさを感じます。当日も、「高原列車は行く」などの曲をメドレーで歌いました。

来年のホームカミングデーは10月27日(日)に、来年4月に新しくオープンする葛飾キャンパスで開催予定ですが、ライブの締めくくりの歌として祥子さん自身が歌詞を作った「むらさきの花咲く町」を歌いました。この歌は、祥子さんの住んでいる「葛飾の町」の歌であり、聴いていて祥子さん自身の心の歌でもあったと思います。

野外のライブ会場は、外堀に沿った道路に面していますが、歩道を歩いている人も立ち止まって聴き入る人が多く、あっという間の25分でした。そんな素晴らしいライブでしたから、アンコールの声が起きたことは言うまでもありません。

時間も午後4時半を回りましたので、来年の葛飾での第8回となるホームカミングデーを楽しみにして、神楽坂を後にしました。

以上、報告します。

平成24年10月30日

理窓会岡山支部 副支部長 三浦 康男